



平成18年3月28日

各位

会社名 ナブテスコ株式会社  
 代表者名 取締役社長 松本 和幸  
 (コード番号 6268 東証 第1部)  
 問合せ先 取締役 総務部長 佐和 博  
 (TEL. 03-3578-7070)

## 平成19年3月期の業績見通しに関するお知らせ

平成18年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)の連結および単体の業績見通しについて、本日の取締役会で決定いたしましたので、下記の通りお知らせします。

なお、平成18年3月期の決算発表につきましては、5月10日を予定しておりますが、今回記載の平成18年3月期の業績予想につきましては前回公表時の数値と同一でありますことを念のため申し添えます。

## 記

## 1. 平成19年3月期の業績見通し(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

## 『連結』

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成18年3月期業績予想(A)	149,000	13,800	13,000	7,100
平成19年3月期業績見通し(B)	152,000	14,500	15,000	8,700
増減額(B-A)	3,000	700	2,000	1,600
増減率(%)	2.0	5.1	15.4	22.5

(金額の単位:百万円)

## 『単体』

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成18年3月期業績予想(A)	107,000	10,500	10,800	6,900
平成19年3月期業績見通し(B)	112,000	10,700	11,200	6,900
増減額(B-A)	5,000	200	400	0
増減率(%)	4.7	1.9	3.7	0

(金額の単位:百万円)

## 2. 平成19年3月期の中間期業績見通し(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

## 『連結』

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成17年9月中間期実績(A)	71,739	7,340	6,940	3,928
平成18年9月中間期業績見通し(B)	75,000	6,800	7,100	4,200
増減額(B-A)	3,261	△540	160	272
増減率(%)	4.5	△7.4	2.3	6.9

(金額の単位:百万円)

## 『単体』

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成17年9月中間期実績(A)	53,403	5,901	6,151	3,736
平成18年9月中間期業績見通し(B)	55,000	5,100	5,400	3,300
増減額(B-A)	1,597	△801	△751	△436
増減率(%)	3.0	△13.6	△12.2	△11.7

(金額の単位:百万円)

## 3. 業績見通しの状況

平成18年度は、国内の堅調な経済情勢に加え、北京オリンピックを控えた中国市場の活況等により、景気は順調に推移するものと予想されます。しかしながら、素材価格の高止まり、為替変動、金利の上昇傾向等の不透明要素があり、経済への影響が懸念されます。

このような状況の中、当社グループは、中期経営計画2年度の目標達成に向けて、国内外の市場開拓、新商品の上市等を積極的に行う予定であります。また更なる収益力の強化を目指して最適生産体制の構築、生産性の改革、改善を行い、コストダウンに努めてまいります。

『連結』（比較は平成18年3月期予想との対比です。）

## ・「売上高」

民間航空機業界の回復、建設機械市場の好調、鉄道車両の国内外の新造車両、更新需要等を背景に前年比30億円増加の1,520億円の見通しです。

## ・「営業利益」

売上高の増加を主因に前年比7億円増加の145億円の見通しです。

## ・「経常利益」

営業利益の増加と金融収支の改善、持分法適用会社の業績改善等により、前年比20億円増加の150億円の見通しです。

## ・「当期純利益」

経常利益の増加により、前年比16億円増加の87億円の見通しです。

『単体』

## ・「売上高」

連結と同様、民間航空機業界の回復、建設機械市場の好調、鉄道車輛の国内外の新造車両、更新需要等を背景に前年比50億円増加の1,120億円の見通しです。

## ・「営業利益」

売上高の増加を主因に前年比2億円増加の107億円の見通しです。

## ・「経常利益」

営業利益の増加と金融収支の改善等により、前年比4億円増加の112億円の見通しです。

## ・「当期純利益」

前年と同額の69億円の見通しです。

以 上

**見通しに関する注意事項:**

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## (参考情報) 通期連結情報のセグメント別見通し

(金額の単位:百万円)

		平成18年3月期 業績予想(A)	平成19年3月期 業績見通し(B)	増減額 (B) - (A)	増減率 (%)
売 上 高	精密機器事業	36,000	30,400	△5,600	△15.6
	輸送用機器事業	37,500	40,200	2,700	7.2
	航空・油圧機器事業	39,500	45,300	5,800	14.7
	産業用機器事業	36,000	36,100	100	0.3
	合計	149,000	152,000	3,000	2.0
営 業 利 益	精密機器事業	6,200	4,900	△1,300	△21.0
	輸送用機器事業	2,800	3,400	600	21.4
	航空・油圧機器事業	1,400	2,500	1,100	78.6
	産業用機器事業	3,400	3,700	300	8.8
	合計	13,800	14,500	700	5.1

## セグメント別見通し

## 精密機器事業

産業用ロボットの主要ユーザーである自動車業界の設備投資が谷間となっており、精密減速機の需要が減少、また子会社の売却により、減収減益となる見通しです。

## 輸送用機器事業

鉄道車両用機器における中国の在来線高速化プロジェクト向け売上が本格化し、国内の置き換え需要の堅調もあって、増収増益の見通しです。

## 航空・油圧機器事業

民間航空機業界は急速に回復する傾向にあり、また国内外の建設機械も好調な推移が見込まれ、増収増益の見通しです。

## 産業用機器事業

自動ドア関連分野は、シェアの拡大により売上は増加、食品用包装機械も回復が見込まれますが、子会社の売却、事業構造の変革等により、売上は前年並み、増益の見通しです。